

社会資本総合整備計画 事後評価書

平成30年5月31日

計画の名称	坂戸、鶴ヶ島下水道組合公共下水道事業（防災・安全）		
計画の期間	平成25年度 ～ 平成29年度（5年間）	交付対象	坂戸、鶴ヶ島下水道組合
計画の目標			

下水道施設の老朽化対策によるインフラ再構築等を行い、市民生活の安全を確保し良好な環境を創造する。

計画の成果目標（定量的指標）

- ①西坂戸地区の管路施設における長寿命化整備延長率を23.5%（H26）から100%（H29）に増加させる。
- ②石井水処理センター長寿命化事業の達成率0%（H25）から37.5%（H29）に増加させる。
- ③石井水処理センター耐震化事業の達成率0%（H25）から20%（H29）に増加させる。
- ④管渠における長寿命化計画策定率を0%（H25）から100%（H29）に増加させる。

定量的指標の定義及び算定式

	定量的指標の現況値及び目標値			備考								
	当初現況値 (H25当初)	中間目標値 (H27末)	最終目標値 (H29末)									
①西坂戸長寿命化整備延長率 西坂戸地区内長寿命化整備済延長（m）/西坂戸地区内長寿命化整備計画管渠延長（10,600m）	23.5%	80.0%	100.0%	・①指標の平成25年度分については、坂戸、鶴ヶ島下水道組合公共下水道事業(H24)の②指標と一体的に評価する。								
②石井水処理センター長寿命化事業の達成率 改築更新した施設数（施設）/改築更新を行う施設数（8施設）	0.0%	0.0%	37.5%									
③石井水処理センター耐震化事業の達成率 耐震化した施設数（施設）/耐震化を行う施設数（5施設）	0.0%	0.0%	20.0%	・②指標の平成25年度分については、坂戸、鶴ヶ島下水道組合公共下水道事業(H24)の④指標と一体的に評価する。								
④管渠における長寿命化計画策定率 長寿命化計画策定済み処理区数（箇所）/長寿命化計画を策定すべき処理区数（1箇所）	0.0%	0.0%	100.0%									
全体事業費	合計 (A+B+C)	1,008百万円	A	1,008百万円	B	0百万円	C	0百万円	D	0百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0.0%

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
知識経験者等の第三者により構成された坂戸、鶴ヶ島下水道組合下水道事業運営審議会に諮問し、評価指標の実現状況及び今後の方針等について意見を求める。	平成30年5月
	公表の方法
	組合ホームページ

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	事業及び施設種別	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
											H25	H26	H27	H28	H29		
1 石井処理区																	
A1-石-1	下水道	一般	坂鶴組合	直接	坂戸、鶴ヶ島下水道組	汚水	改築	西坂戸地区管路長寿命化事業	管更生等	坂戸市						34.8	
A1-石-2	下水道	一般	坂鶴組合	直接	坂戸、鶴ヶ島下水道組	処理場	改築	石井水処理センター施設の改築更新	施設の改築更新	坂戸市						973.2	
A1-石-3	下水道	一般	坂鶴組合	直接	坂戸、鶴ヶ島下水道組	処理場	改築	石井水処理センター耐震補強事業	実施設計・工事(管理棟)	坂戸市						0	
2 北坂戸処理区																	
A1-北-1	下水道	一般	坂鶴組合	直接	坂戸、鶴ヶ島下水道組	汚水	改築	北坂戸処理区管路長寿命化事業	管更生等	坂戸市						0	
											合計		1,008				

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況

- ①西坂戸地区の老朽化した管路施設の延命化については、長寿命化計画を策定し管渠の改築・更新事業を推進したことにより、最終目標値を達成することができた。
- ②石井水処理センターの老朽化した施設の延命化については、長寿命化計画を策定し施設の改築・更新事業を推進したことにより、最終目標値を達成することができた。
- ③石井水処理センター耐震化事業については、平成27年度から3箇年計画で管理棟の耐震補強・設計工事を予定していたが、「下水道総合地震対策計画」（平成31年度予定）を策定してから事業を実施するため、今回は事業を実施しなかった。
- ④管渠における長寿命化計画の策定については、平成28年度から2箇年計画で北坂戸処理区を予定していたが、施設更新計画の実施については、長寿命化計画から「下水道ストックマネジメント計画」に移行（平成32年度予定）してから事業を実施するため、実施しなかった。

Ⅱ 定量的指標の達成状況	指標①（西坂戸長寿命化整備延長率）	最終目標値	100.0%	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	100.0%		
	指標②（石井水処理センター長寿命化事業の達成率）	最終目標値	37.5%	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	37.5%		
	指標③（石井水処理センター耐震化事業の達成率）	最終目標値	20.0%	目標値と実績値に差が出た要因	石井水処理センター耐震化事業については、平成27年度から3箇年計画で管理棟の耐震補強・設計工事を予定していたが、石井水処理センター施設の改築更新を最優先とし事業を進めたため、耐震化事業については実施することができなかった。今後は、「下水道総合地震対策計画」を策定してから事業を実施することとしたい。
		最終実績値	0.0%		
	指標④（管渠における長寿命化計画策定率）	最終目標値	100.0%	目標値と実績値に差が出た要因	管渠における長寿命化計画の策定については、平成28年度から2箇年計画で北坂戸処理区を予定していたが、管渠の耐震化事業が進まず、事業を実施することができなかった。今後は「下水道総合地震対策計画」を策定し、管渠の耐震化に努め「下水道ストックマネジメント計画」に移行することとしたい。
		最終実績値	0.0%		
Ⅲ 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)					
3. 特記事項（今後の方針等）					
<p>今後においては、処理場施設、ポンプ場施設、既存の管渠等について「下水道総合地震対策計画」を策定し、施設の耐震化を推進していく必要がある。また、これまでの長寿命化支援制度に替わり、新たに「下水道ストックマネジメント計画」を策定し、事業費の平準化や計画的な施設の改築更新を実施することで、市民生活の安全・安心を確保し良好な水環境を創造していく。</p>					